



4 月 号
平成 30 年 4 月 25 日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで
たくましい庄川っ子

- ・考える子
- ・思いやりのある子
- ・元気な子

新たなる一步

校長 水口 悟

牡丹華さく (ぼたん はなさく 穀雨・末候)

牡丹の花が咲き出す頃。中国では、牡丹の花は王様というほど愛でられてきました。(新暦では、およそ四月三十日～五月四日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

◇ひとり歩きのできる子とは・・・

本校のめざす子どもの姿は、ひとり歩きのできる子です。ひとり歩きのできる子とは、決して独りぼっちで歩くことではありません。自分のまわりの人・物・事と主体的に貪欲につながり、自分を膨らませながら逞しく歩む姿のことです。子どもたちは、一步を踏み出しました。ともに私たちも歩みたい。

◇ひとり歩きのできる子の確かな一步・・・

入学式のときに、「月曜日から、お兄さんやお姉さんと元気よく登校してくださいね」と話した通り、新入生6名が元気よく、登校してくれています。目を見て「おはよう」と声をかけると、「おはよう」と声を返してくれます。「そうか、おはようございます」と声をかけないといけなかったかと、少し反省もしますが、上級生もとても張り切っていて、こちら元気をもらい1日をスタートします。

卒業式から新年度をスタートするまでの約3週間は、教育活動の様々なことが凝縮した毎日でした。その中でもすばらしいのは、新しい学級担任の学級通信のタイトルです。実に個性的であり、「この1年間でこの学級を～したい!」という長期展望のもと、目の前の子どもたちだからこそ強い期待が込められたタイトルがつけられています。この子どもたちの担任となり、第1号の通信を渡すまでの短い間に考え抜かれたタイトルである事が伝わってきます。一流です。とても嬉しかったです。

13日には、「笑顔いっぱいとなる会にしよう」というテーマのもと、新入生を迎える会がありました。

6年生が笑顔で1年生に接すると1年生も笑顔になります。最高学年の姿は、下級生の憧れの姿そのものです。新6年生は、とても張り切っています。中学1年生になった6年生の姿に刺激され憧れ、「今度は私達が憧れ頼られる姿になる番!」という声が聞えんばかりです。言葉や動きに勢いがあります。途中で、保育園の子どもたちがいつもの散歩に小学校を訪れてくれました。体育館に入ると、お兄さんお姉さんの様子をじっと見たり手をつないだり、みんなとゲームをしたりして楽しんで帰りました。

また、午後からは中学校の1年生を迎える会があり参観させて頂きました。2・3年生の中学校生活を紹介するすばらしい演劇。見る度に、これは村芝居!と改めて庄川の文化の偉大さを感じさせられます。上級生の笑顔はやはり新入生の笑顔につながります。すっかり中学生である姿を嬉しく思いました。



この日は、偶然にも保育園から中学校までの12年間の子どもたちに触れることができた1日となりました。すばらしい!の一言を自分に言い聞かせています。それは、12年間の子どもの成長に触れる仕事ができる地域は、この庄川のまちでしかないからです。庄川のすばらしさに浸り、今年度もがんばります。